

日本彫刻史上の最高傑作、寺外初公開のご本尊

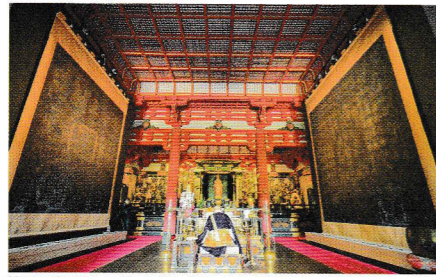


【国宝】薬師如来立像 平安時代・8~9世紀 通期展示

空海の寺、神護寺。 1200年の至宝集結

空海が見つめた宝物の数々

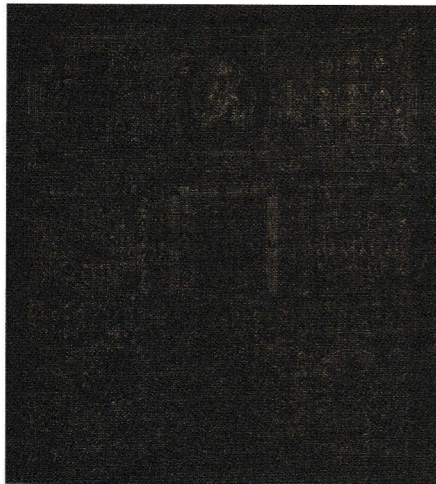
「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」は、空海が唐から請来した曼荼羅をもとに制作されました。神護寺の前身寺院にまつられていた「薬師如来立像」を本尊として迎えたのも空海です。ほかにも、「風信帖」(京都・東寺蔵)をはじめとする空海直筆の書や、高雄を舞台に空海と交流したことがわかる最澄直筆の手紙「尺牘(久隔帖)」(奈良国立博物館蔵)など、空海が生きた時代を感じさせる名品をご紹介します。



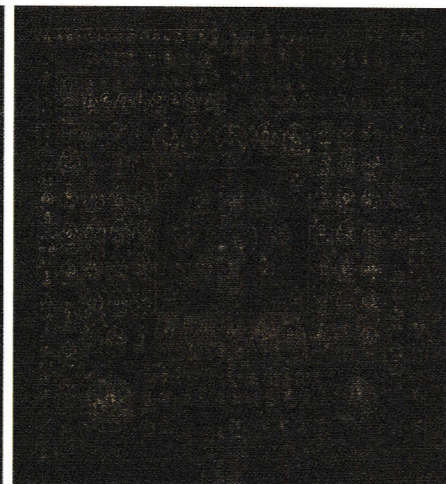
約230年ぶりの修理後に行われた曼荼羅の開眼法要の様子
提供 観光新聞社

平安貴族の祈りと美の世界

「神護寺経」は神護寺に伝わった「紺紙金字一切経」の通称です。鳥羽天皇の発願とされ、当初制作されたおよそ5000巻のうち、2000巻余りが現存します。一方、赤い衣を着ることから「赤釈迦」の名で知られる「釈迦如来像」は、細く切った金箔による截金文様を特徴とする。「神護寺経」と「赤釈迦」が織りなす平安貴族の美の世界をお楽しみください。



【金剛界】後期展示



【胎藏界】前期展示

空海が筆を入れたと伝えられる、両界曼荼羅の古典

【国宝】両界曼荼羅(高雄曼荼羅) 平安時代・9世紀

運慶の孫・康円作の「愛染明王坐像」
変化にとんだ姿の「十二神将立像」や
「四天王立像」にも注目!



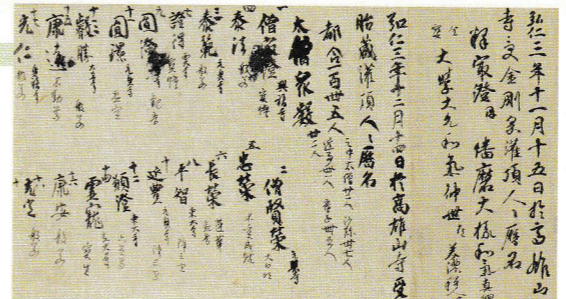
金剛虚空蔵 業用虚空蔵 法界虚空蔵 蓮華虚空蔵 宝光虚空蔵

【国宝】五大虚空蔵菩薩坐像 平安時代・9世紀 通期展示

空海の構想を弟子の真済が実現、五体が揃う最古の像

京都市の西北、高雄に所在する神護寺は、中国・唐から帰国した空海が活動の拠点とした寺院です。国家の安泰を願う密教修法や金剛界・胎藏界両部の灌頂が初めて行われるなど、真言密教はじまりの地となりました。本展は2024年が神護寺創建1200年と空海生誕1250年にあたることを記念して開催します。空海ゆかりの宝物をはじめ、神護寺に受け継がれる貴重な文化財をご覧ください。

前期展示: 7/17(水)~8/12(月・休) 後期展示: 8/14(水)~9/8(日)



空海の日常の書風がうかがえる、密教儀礼・灌頂の受法者名簿

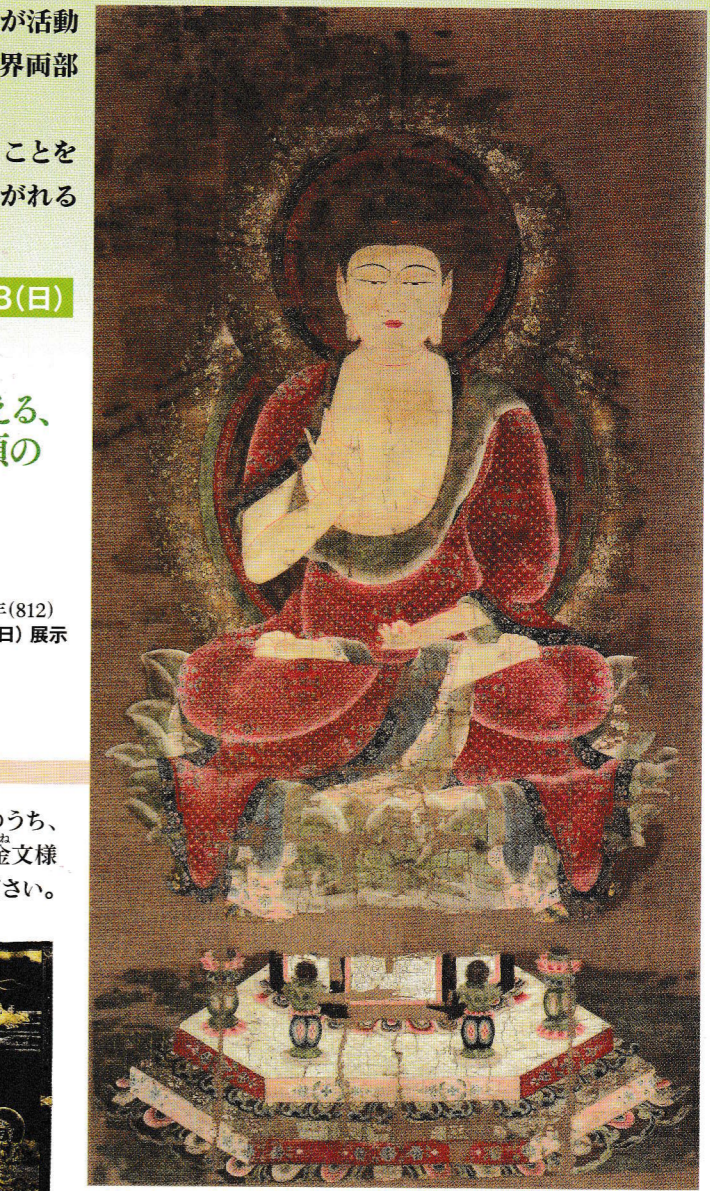
【国宝】灌頂曆名簿
空海筆 平安時代・弘仁3年(812) 7月17日(水)~8月25日(日) 展示(部分)

祈りと美の世界

「神護寺経」と「赤釈迦」が織りなす平安貴族の美の世界をお楽しみください。

神護寺経と呼ばれる
金泥で書かれた
一切経

【重要文化財】大般若経 卷第一 (紺紙金字一切経のうち) 平安時代・12世紀 通期展示



彩色の団花文にきらめく截金文様
平安仏画の名品

【国宝】釈迦如来像 平安時代・12世紀 後期展示

中世神護寺の隆盛

文覚による神護寺の復興後、弟子の上覚や明恵によって伽藍整備が進められ、神護寺はさらに発展していきます。後白河法皇や源頼朝から寄進された荘園は、復興の経済的な基盤となりました。中世神護寺の隆盛がうかがえる寺宝の数々をご紹介しますとともに、「山水屏風」や「十二天屏風」をはじめとした、密教空間を彩る美術工芸品をご覧ください。



現存する最古のやまと絵屏風 灌頂の場で用いられた

【国宝】山水屏風 鎌倉時代・13世紀 後期展示



【国宝】伝源頼朝像 鎌倉時代・13世紀 前期展示

等身大の迫力
日本肖像画の傑作

※中面の作品はすべて京都・神護寺蔵